『一部に持ち直しの動き』

～設備投資意欲も1年ぶりに改善～

景気の今後については、現況で推移すると予測している企業が62・3％と最も多いが、今後悪化するとの見方が減少し持ち直しの期待感が高まった。しかし景気の回復時期については、約半数の企業が来年9月以降になるとの見方をしており、まだまだ景気回復は遠いと受けとめている。景況感DI値、受注状況DI値、売り上げ予想DI値、採算DI値はマイナス幅が縮小。しかし、依然として資金繰り状況では厳しい状態が続くと予想している。

設備投資については、予定ありとする企業が32・9％と1年ぶりに30％台を超えたが、その内、計画を景気如何で見直すと回答した企業は約40％あった。

その他、10月末の日経平均株価予測では、一万円台が最も多く、優先すべきわが国の政策としては、法人税・所得税などの減税を求める声が最も多かった。

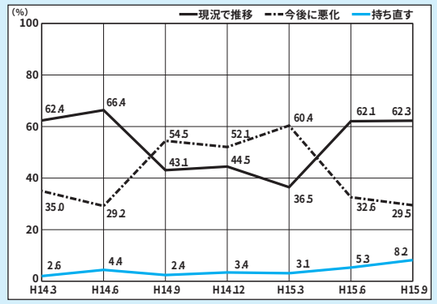
※本調査は前年同期に比べてではなく3ケ月前を主な対象として、短期的な景気動向を把握するために行っています。この調査は毎年3月・6月・9月・12月の年4回行なっています。今回は株価予測・国の政策等についても触れています。

調査概要

【調査時期】平成15年9月9日(火)～17日(水)
【調査方法】ファックスにより送付、回収
【調査対象】当所9部会委員　350社
【回答数】147社(回答率:42.0%)
【回答企業属性】

製造業	44社	(29.9%)
建設業	12社	(8.2%)
卸小売業	55社	(37.4%)
運輸業	7社	(4.8%)
サービス業	22社	(15.0%)

景気の今後について



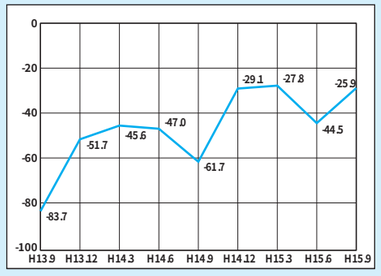
【景気の今後】

景気の今後について、「現況で推移する」と予測している企業は前回6月調査とほぼ変わらずの62・3％。「持ち直す」と予測している企業は若干増加し8・2％となった。「今後悪化する」という見方は前回の32・6％からさらに減少し29・5％。景気の今後については、現況で推移するとの見方をしている企業が引続き多いが、若干明るいきざしが見られた。

【自企業の景況感】

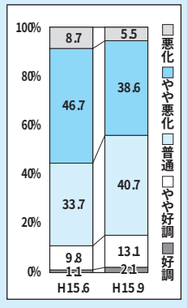
自企業の景況感として、「好調」は1・1％から2・1％に微増、「やや好調」は9・8％から13・1％に微増「やや悪化」は46・7％から38・6％に減少、「悪化」は8・7％から5・5％に微減となった。DI値はマイナス28・9ポイントと、マイナス幅が減少した。

自企業の景況感D値の推移



※D値＝(好調＋やや好調)－(悪化＋やや悪化)

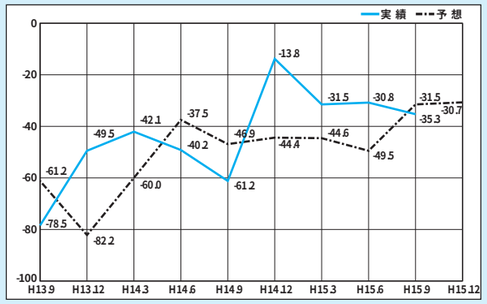
自企業の景況感



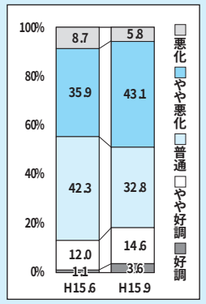
【売上(出荷)高】

売上の現状は「好調」「やや好調」が微増、「やや悪化」が9・3ポイント増加した。売上の今後については、「好調」「やや好調」が5・1ポイントの増加、「悪化」「やや悪化」が4・3ポイント増加した。「普通」の回答が減り、好調・悪化いずれも増え企業間格差が伺える。売上DI値の今後の予想では、厳しいことに変わりは無いがマイナス幅が減少しここ2年間で最も明るい30・7マイナスポイントとなった。

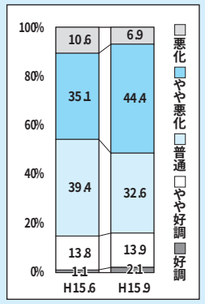
売上D値の推移



売上今後



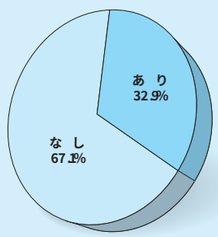
売上現状



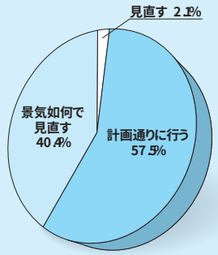
【設備投資】

計画の「予定有り」とする企業が32・9％と1年ぶりに30％台を超えた。しかし、設備投資の実行については「予定有り」とした企業の約40％が景気如何で見直すとしている。計画の内容については「設備更新」が44・4％で最も多く、次いで「合理化省力化」28・9％となっている。

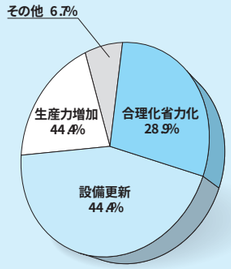
設備投資予定の有無



設備投資の実行



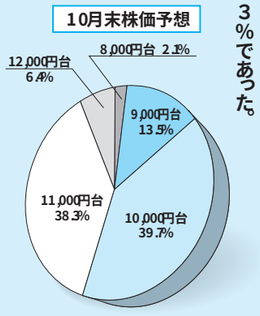
計画の内容



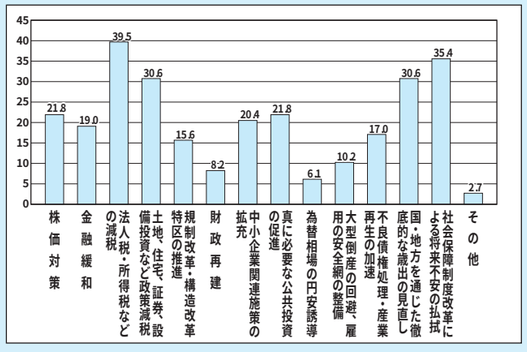
【10月末の日経平均株価】

株価の予測は一万円台が39・7％と最も多く、次いで一万一千円台38・3％であった。

10月末株価予想



【優先すべきわが国の政策】

法人税・所得税などの減税が39・5％で最も多く、次いで、社会保障制度改革による将来不安の払拭が35・4％であった。

優先すべきわが国の政策